

Document de travail pour le *Genjôkôan*

Dans le cadre de l'atelier du Dojo Zen de Paris avec Yoko Orimo

Version du 22 novembre 2012

Voici en 1^{ère} partie l'essentiel du *Genjôkôan* trouvée sur <http://kohgetsuji.justhpbs.jp/genjokoan.html> (j'ai supprimé les commentaires). Pour m'y reconnaître j'ai mis des numéros de paragraphe en faisant les mêmes paragraphes que la traduction française de Y. Orimo. On nous a donné en séance la version Ôkubo qui comporte 4 pages (p.7-10), la p.11 étant le début de *Maka Hannya haramitsu*. Dans cette version, nos v. 1 et 2 forment un seul paragraphe de même 3 et 4, de même 6 et 7, et 14-15-16. Notre paragraphe 18 correspond au kôan de la fin (histoire du maître Hôtetsu). Il n'y a pas ici les dernières colonnes d'Ôkubo qui disent où et quand le *Genjôkôan* a été écrit. Il peut arriver qu'au cours de mes manipulations un caractère ou deux aient disparu.

J'ai surligné 5 termes : 法 *hō* (dharma) ; 成 *jō* (réalisation)

仏 (=佛) *butsu* (éveillé) ; 悟 *go* (éveil) ; さとり *satori* (éveil)

Si vous voulez refaire le travail de surlignage (c'est intéressant de le faire soi-même) vous remettez d'abord sans surlignage l'ensemble.

Tout à la fin j'ai mis les quatre premiers versets avec la transcription phonétique en dessous et une grande partie de la traduction interlinéaire. J'ai fait cela pour moi qui ne suis pas une spécialiste, donc ça n'a aucune prétention.

Christiane Marmèche

Plus d'informations sur notre blog : <http://www.shobogenzo.eu> Visitez-le

Première partie : le *Genjôkôan* en japonais

正法眼蔵 *Shôbôgenzô*

現成公案 *Genjôkôan*

1. 諸法の仏法なる時節、すなはち迷悟あり、修行あり、生あり、死あり、諸仏あり、衆生あり。
2. 万法ともにわれにあらざる時節、まどひなくさとりにく、諸仏なく衆生なく、生なく滅なし。
3. 仏道もとより豊儉より跳出せるゆゑに、生滅あり、迷悟あり、生仏あり。
4. しかもかくのごとくなりといへども、花は愛惜にちり、草は棄嫌におふるのみなり。

5. 自己をはこびて方法を修証するを迷とす。方法すすみて自己を修証するはさとりなり。迷を大悟するは諸仏なり。悟に大迷なるは衆生なり。さらに悟上に得悟する漢あり。迷中又迷の漢あり。
6. 諸仏のまさしく諸仏なるときは、自己は諸仏なりと覚知することをもちゐず、しかあれども証仏なり。仏を証してもてゆく。
7. 身心を挙して色を見取し、身心を挙して声を聴取するに、したしく会取すれども、かがみに影をやどすがごとくにあらず。水と月とのごとくにあらず。一方を証するときは一方はくらし。
8. 仏道をならふといふは、自己をならふ也。自己をならふというは、自己をわするなり。自己をわするるといふは、方法に証せらるるなり。方法に証せらるるといふは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり。悟跡の休欠なるあり。休欠なる悟跡を長々出ならしむ。
9. 人、はじめて法をもとむるとき、はるかに法の辺際を離却せり。法すでにおのれに正伝するとき、すみやかに本人分なり。
10. 人、舟にのりてゆくに、めをめぐらして岸をみれば、きしのうつるとあやまる。めをしたしく岸につくれば、ふねのすすむをしるがごとく、身心を乱想して方法を弁肯するには、自心自性は常住なるかとあやまる。もし行李をしたしくして箇裏に帰すれば、方法のわれにあらぬ道理あきらけし。

11. たき木、はひとなる。さらにかへりてたき木となるべきにあらず。しかあるを、灰はのち、薪はさきと見取すべからず。しるべし、薪は薪の法位に住して、さきあり、のちあり。前後ありといへども、前後際断せり。灰は灰の法位にありて、のちありさきあり。かのたき木、はひとりぬるのち、さらに薪とならざるがごとく、人のしぬるのち、さらに生とならず。しかあるを、生の死にあるといはざるは、仏法のさだまれるならひなり。このゆゑに不生といふ。死の生にならざる、法輪のさだまれる仏転なり。このゆゑに不滅といふ。生も一時のくらゐなり。死も一時のくらゐなり。たとへば、冬と春のごとし。冬の春となるとおもはず、春の夏になるといはぬなり。

12. 人のさとりをうる。水の月のやどるがごとし。月ぬれず、水やぶれず。ひろくおほきなるひかりにてあれど、尺寸の水にやどり、全月も弥天も、くさの露にもやどり、一滴の水にもやどる。さとりの人をやぶらざる事、月の水をうがたざるがごとし。人のさとりをけい礙せざること、滴露の天月をけい礙せざるがごとし。ふかきことはたかき分量なるべし。時節の長短は、大水少水を検点し、天月の広狭を弁取すべし。

13. 身心に法いまだ参飽せざるには、法すでにたれりとおぼゆ。法もし身心に充足すれば、ひとかたはたらずとおぼゆるなり。たとえば、船にのりて山なき海中にいでて四方をみるに、ただまろにのみみゆ。さらにことなる相みゆることなし。しかあれど、この大海、まろなるにあらず、方なるにあらず。のこれる海徳つくすべからざるなり。宮殿のごとし。瓔珞のごとし。ただわがまなこの

およぶところ、しばらくまろにみゆるのみなり。かれがごとく、万法もまたしかあり。塵中格外、おほく様子を帯せりといへども、参学眼力のおよぶばかりを見取会取するなり。

14. 万法の家風をきかんには、方円とみるよりほかに、のこりの海徳山徳おほくきはまりなく、よもの世界あることをしるべし。かたはらのみかくのごとくあるにあらず、直下も一滴もしかあるとしるべし。

15. うを水をゆくに、ゆけども水のきはなく、鳥そらをとぶに、とぶといへどもそらのきはなし。しかあれども、うをとり、いまだむかしよりみずそらをはなれず。只用大のときは使大なり。要小のときは使小なり。かくのごとくして、頭々に辺際をつくさずといふ事なく、処々に踏翻せずといふことなしといへども、鳥もしそらをいづればたちまちに死す。魚もし水をいづればたちまちに死す。以水為命しりぬべし。以空為命しりぬべし。以鳥為命あり、以魚為命あり。以命為鳥なるべし。以命為魚なるべし。このほかにさらに進歩あるべし。修証あり。その寿者命者あること、かくのごとし。

16. しかあるを、水をきはめ、そらをきはめてのち、水そらをゆかんと擬する鳥魚あらんは、水にもそらにもみちをうべからず、ところをうべからず。このところをうれば、この行李にしたがひて現成公案す。このみちをうれば、この行李にしたがひて現成公案なり。このみち、このところ、大にあらず小にあらず、自にあらず他にあらず、さきよりあるにあらず、いま現ずるにあらざるがゆゑにかくのごとくあるなり。

17. しかあるがごとく、人もし仏道を修証するに、得一法、通一法なり、遇一行、修一行なり。これにところあり。みち通達せるによりて、しらるゝきはのしるからざるは、このしることの、仏法の究尽と同生し、同参するゆゑにしかあるなり。

得処かならず自己の知見となりて、慮知にしられんずるとならふことなかれ。証究すみやかに現成すといへども、密有かならずしも現成にあらず、見成これ何必なり。

18. 麻浴山宝徹禅師、あふぎをつかふちなみに、僧きたりてとふ。「風性常住、無処不周なり、なにをもてかさらに和尚あふぎをつかふ」。いはく、「なんぢただ風性常住をしれりとも、いまだところとしていたらずといふことなき道理をしらず」と。僧いはく、「いかなるかこれ無処不周底の道理」。ときに、師、あふぎをつかふのみなり。僧、礼拝す、

19. 仏法の証験、正伝の活路、それかくのごとし。常住なればあふぎをつかふべからず、つかはぬをりもかぜをきくべきといふは、常住をもしらず、風性をもしらぬなり。風性は常住なるがゆゑに、仏家の風は、大地の黄金なるを現成せしめ、長河の蘇酪を参熟せり。

Deuxième partie : le 1^{er} quatrain en interlinéaire.

À la page suivante vous avez le titre et le texte du premier quatrain en caractères japonais avec la lecture japonaise en dessous et aussi la majorité de la traduction interlinéaire, avec assez souvent les mots utilisés par Yoko Orimo dans sa traduction. J'ai renvoyé aux notes de Y Orimo (p.15 de son tome 3 du Shôbôgenzô ou p. 7-8 du fichier *Genjôkôan* que vous avez sur le blog dans "traductions").

En ligne <http://www.dictionnaire-japonais.com/> on a un dictionnaire japonais-français pour faire ce genre de travail, mais il y a trop de sens possibles et parfois le sens qui nous concerne n'y est pas. Pour lire les hiragana on a http://fr.wikiversity.org/wiki/Japonais/Grammaire/Alphabet/Syst%C3%A8me_graphique mais là aussi ça ne correspond pas toujours.

現 成

GEN -JÔ

Apparence - réalisation intérieure kôan

D'où Genjôkôan : "Le kôan qui se réalise comme présence"

公 案

KÔ-AN

1. 諸 法 の 佛 法 なる 時 節、
SHO - HÔ NO BUP- PÔ NARU JI- SETSU,

multitude des dharma l'éveillé- dharma de est moment,

すなわち 迷 悟 あり 修行 あり、
SUNAWACHI MEI GO ARI SHU-GYÔ ARI,

alors égarement éveil il y a pratique il y a,

生 あり 死 あり、諸 佛 あり 衆 生 あり。
SHÔ ARI SHI ARI, SHO- BUTSU ARI SHU-JÔ ARI

Naissance il y a mort il y a , multitude des éveillés il y a foule des êtres (cf note 2) il y a .

2. 万 法 とも に われ にあらざる 時 節、 まどひ なく
BAN-PÔ TOMO NI WARE NI-ARAZARU JI-SETSU, MADOI NAKU

10 000 existants ensemble moi ne sont pas moment favorable, égarement il n'y a pas

さとり なく、諸 佛 なく 衆 生 なく、
SATORI NAKU, SHO-BUTSU NAKU SHU-JÔ NAKU,

éveil il n'y a pas, multitude des éveillés il n'y a pas foule des êtres il n'y a pas,

生 なく 滅 なし。
SHÔ NAKU METSU NASHI.

apparition il n'y a pas disparition sans (il n'y a pas).

3. 佛 道 も と より 豊 儉 より 跳 出 せる
BUTSU-DÔ MOTOYORI HÔ- KEN YORI CHÔ-SHUTSU SERU

Éveillé - voie dès l'origine plénitude manque depuis outrepasser

ゆゑに、 生 滅 あり、迷 悟 あり、生 佛 あり。
YUENI, SHÔ-METSU ARI, MEI-GO ARI, SHÔ-BUTSU ARI.

par conséquent apparition disparition il y a , égarement éveil il y a , êtres éveillés il y a .

4. しか も かく の ご とく なり と いへども、
SHIKA-MO KAKU NO GOTOKU NARI TO IEDOMO,

Néanmoins ainsi comme ce soit bien que ,

華 は 愛 惜 に ちり、
HANA WA AI-JAKU(SEKI) NI CHIRI,

Fleurs amour regret s'effeuillent ,

草 は 棄 嫌 に おふる のみ なり。
SÔ WA KI-KEN NI ÔRU NOMI NARI.

herbes haine rejet croissent seulement sont .